

# 府立岸和田支援学校



テーマ: 肢体不自由支援学校における自立活動をベースとした授業力向上に関する研修  
～教科指導におけるチームティーチングの在り方～

## 概要

肢体不自由支援学校における教科指導について、自立活動の指導を基本とした授業の重要性を基に、多様な児童生徒に対する個別課題をふまえた授業実践の在り方を検討しました。

今年度は、音楽・美術・保健体育の3つの授業について授業研究を実施しました。生活年齢を鑑みた発達年齢等実態に合わせた課題の設定や、学校看護師を含めた、教員の協働した授業づくりに欠かさないチームティーチング（以下 TT）の在り方についての検討は、全体研修や教科ごとの分科会等の場を設定することで、学部や教科を超えた教員どうしの協議が実現し、より良い指導・支援につながる取組みを検討することができました。

## 実施

### スケジュール

#### Research

5月21日(火) 打合せ

#### Vision

6月27日(木) 第1回校内全体研修会

#### Plan

7月1日(月) 第1回分科会(全体教科会)

#### Do

10月1日(火) 第2回分科会(各教科会)  
12月3日(火) 第3回分科会(全体教科会)  
2月～ 公開授業週間  
2月18日(火) 第2回校内全体研修会

#### Check & Act

2月25日(火) アンケート集約

## 全体会

### 6月27日(木)第1回校内全体研修会について

支援教育推進室指導主事より(以下資料より抜粋)

「肢体不自由のある児童生徒への授業づくりについて」と題し、自立活動と教科指導の関連性や TT の効果的な活用、生活年齢に留意した発問や教材設定について共有しました。TT の活用の実態についてのグループ協議では、「子どもの実態が多様であるため、教員どうしの情報共有は重要である。コミュニケーションをとる時間の確保が難しいので工夫が必要と感じた。」「サブ教員は、子どもどうしの架け橋になる存在。教員は子どもの思いや動きをつなぐことを大切にしたい。」「子どもの成長を記録していくことは、評価の際にも有効。サブ教員と協力して取り組むことも良いと思う。」などのご意見がありました。

#### 0 自立活動と教科指導の関連性

特別支援学校学習指導要領 各教科編(小・中学・中学)より

■ 肢体不自由者である児童生徒に対する教育を行う特別支援学校

1. 「思考力、判断力、表現力等」の育成  
2. 指導内容の設定等  
3. 姿勢や認知の特性に応じた指導の工夫  
4. 補助具や補助的手段、コンピュータ等の活用

各教科等の指導に当たっては、特に自立活動の時間における指導との密接な関連を保ち、学習効果を一層高めるようにすること。

5. 自立活動の時間における指導との関連

学習効果を高めるためには、児童生徒一人一人の学習上の困難について、指導に当たる教師間で共通理解を回り、一貫した指導を組織的に行う必要がある。また、学習上の困難に対し、児童生徒自身が自分に合った改善・克服の仕方を身に付け、対処できるように指導していくことも大切である。なお、各教科において、自立活動の時間における指導と密接な関連を図る場合においても、児童生徒の身体の動きやコミュニケーション等の困難の改善に重点が置かれ過ぎることによって、各教科の目標を達成してしまうことのないよう留意することが必要である。

#### 2. 公開授業に向けて

① チームティーチングのあり方

教師の組織と教師の担当する生徒を含む、授業組織の一つであって、この組織においては、二人以上の教師が、同一生徒集団の授業の全部か、またはその重要部分に対して責任を負い、共働するもの。  
Shaplin, J. T.

Q. チームティーチングをどのように活用していますか？

◆ 授業実施に向けて

- ・ 授業計画の相談

◆ 授業前

- ・ 授業目標の共有
- ・ 役割分担(担当児童生徒・専門性・評価)

◆ 授業後

- ・ 子どもの様子の共有
- ・ 次の授業に向けて

等

+ 学校看護師との協働

微細な反応がある子ども → チームティーチングの必要性

第1回  
分科会  
(7月1日)

学 年 ・ 教 科 : 中学部 美術、高等部 音楽・保健体育

[音楽] 姿勢保持や楽器操作等の手の使い方の指導(装具・補助具等の活用)  
歌う・演奏する等、発声や手指の操作性に課題がある児童生徒の支援

[美術] 姿勢保持や用具操作等の手の使い方の指導(装具・補助具等の活用)  
医療的ケアを必要とする児童生徒への教員と学校看護師が協同した支援

[保健体育] 姿勢保持や用具操作等の手の使い方の指導(装具・補助具等の活用)  
運動量確保のための工夫、障がい者スポーツとしての取組み

上記のポイントを中心に、教科や学部を超えた3つの分科会を組織し、協議を行った。

第2回  
分科会  
(10月1日)研 究 協 議 の  
ポ イ ン ト

学 年 ・ 教 科 : 中学部 美術、高等部 音楽・保健体育

[音楽]  
・マイクで自分や友だちの声を聴くことで発声を意識した取組みになった  
・楽器に触れたい、演奏したい等の学習意欲と手指操作の向上へ

[美術]  
・導入で手湯等のマッサージ→学習への準備、手指への意識、リラクゼーション  
・学校看護師と連携した適切なタイミングでの医療的ケアの実施

[保健体育]  
・児童生徒の得意な動きを生かした姿勢や補助具の工夫  
・ボール等の教材は“本物”を用いる良さを生かす→補助具等の工夫

各教科担当者  
より報告

## 成果

○チームティーチングの良さを活かす

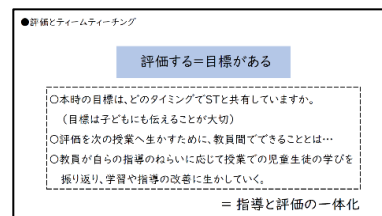
- ・共通理解の難しさに対する工夫  
→学習指導案や授業の導入でねらいを共有
- ・なぜ?どうしたらよい?などの思いを抱え込まない  
→複数の視点で子どもを見る、語る、教材を作ってみる。

○子どもに伝わる言葉を考える

- 生活年齢と発達年齢を意識した取組みと実態に即した発問

○学習評価について

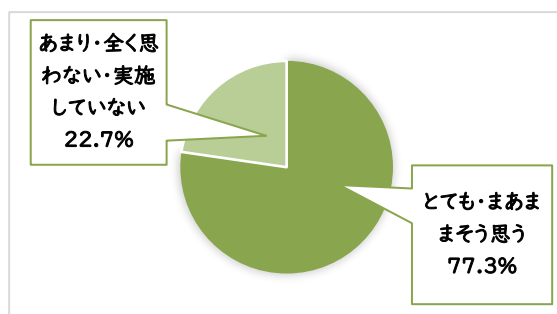
- 目標設定の明確化と共有
- 指導と評価の一体化とそれを生かす TT の活用



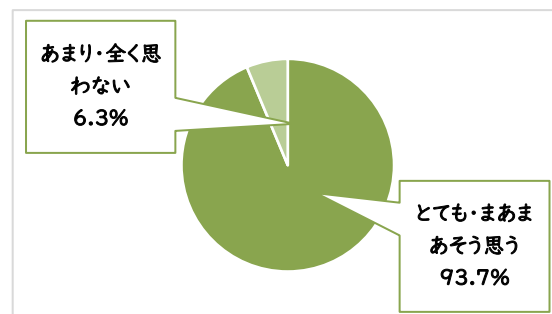
今年度確認できた上記の内容を全体で共有し、それぞれがどう生かせるかを協議・検討した。

アンケート  
結果

実施前



実施後



(アンケートより)

- ・教科指導と自立活動や生活指導の関連性を深めていきたいです。
- ・パッケージ支援を通じて、校内で共有していくことの効果を感じました。
- ・教科を超えて話し合いができたことは、新しい視点があり、新鮮に感じました。
- ・改めて、TT について考える機会になりました。
- ・今回の学びをさらに深めてそれぞれの授業を充実させることができればと思います。